



中央、監督の左側にリスボン市長、その左が在ポルトガル日本国大使、監督の右側はエストリル音楽祭芸術監督ピネイロ・ナジー氏

歌劇 天空の町

Town in the Sky

ポルトガル公演記念文集

2014年7月29日～8月4日

歌劇「天空の町」ポルトガルで初の海外公演

報告書【エドワード親書より】

日本各地からの数々のご支援により、今回も楽しく有意義な海外公演になりました。心から、改めて感謝申し上げます。様々なご声援ありがとうございました。残念ながらポルトガル公演に参加できなかった方々も多数いらっしゃったと思いますが、日本からの皆様の熱いエールを受け止めながら、参加者一同が大いに燃えて舞台を務めてくれたことを、今ここに誇りを持ってご報告します。

7月30日のディナーコンサートには、今回の公演に大変なご支援を頂いたリスボン市長のアントニオ・コスタ氏が複数のテレビ局や新聞社を同伴していらっしゃいました。別子山のしょうがえな踊りや別子音頭を、とても楽しげにご覧になっていたのが印象的でした。また、東博史日本国大使、高川定義公使はこれに同席されたのみならず、われわれの夕食にも親しくお付き合いくださり、31日には私と何名かを大使公邸に夕食会に招いていただき、そして8月2日トリンダーデ劇場での本番には東大使がご鑑賞いただき、高川公使は何と合唱で出演されました。

終演後に東大使が、「日本の心を見事に表現してくださって感動しました。」とメッセージをくださり、来年もポルトガルで是非公演してくださいと、ご依頼くださいました。

伊庭貞剛の生き方から学ぶべき日本の心は日本人だけにではなく、海外の方々にも深く関心を持っていただけたことが今回はっきり証明されたように思います。

従来の欧州オペラの模倣から脱皮して、世界に通じる新しい日本の歌劇を目指す私たちの新しい一歩がこうして踏み出せたことに、皆様への感謝の念を深くする次第です。

世界情勢を考えますと、国際交流を深めて互いが理解しあうことが、今こそどれだけ大切か思い知るところです。そんな中ずっと提唱し続けてまいりました《オペラによる国際交流》は確かに大変な労力が必要ですが、今回の歌劇「天空の町」ポルトガル公演では参加者がそれぞれの役割をしっかりと自覚し、自分の出来ることを精一杯やってくれました。これからも、ご支援くださる皆様とともに精一杯の努力を積み重ねてまいりたいつもりですので、どうぞご指導ご鞭撻いただけますよう、心からお願いしてご報告とさせていただきます。

2014年8月10日
東京オペラ協会 芸術監督
石多エドワード

ピネイロ・ナジー氏より

Dearest Edward,

I hope you and Kayoko and all our Japanese friends are well and your flights back home were good.

I am sending just a couple of nice photos of the opera. If you wish, I can send a CD with many others.

It was so nice to see you and Kayoko again, even for so short time. Dulce and I would like to be together soon and for a longer time.

Keep in touch and much love,

Nagy

Much kisses from Dulce!!



Dearest Edward, my dear friends,

Your recent performance at the 40th Estoril Lisbon Festival, was, as always, unforgettable. The wonderful ideal of the opera theme is an example how much important and precious must be nowadays the understanding and preservation of the nature by the humanity.

On behalf of the festival, I also would like to express my deeply thanks to the members of the Tokyo Opera Association and congratulate them for their fantastic artistic involvement and generosity. God bless you all!

Our goal is to promote the international relationship and cultural exchange. Personally,

I dedicate a great admiration and respect by the Japanese culture and its people. The festival is ready, as always, to stimulate and develop the cultural exchange. Hopefully the conditions will help us to realize it.

From the deep of my hart, I wish you all the best to the members of the opera.

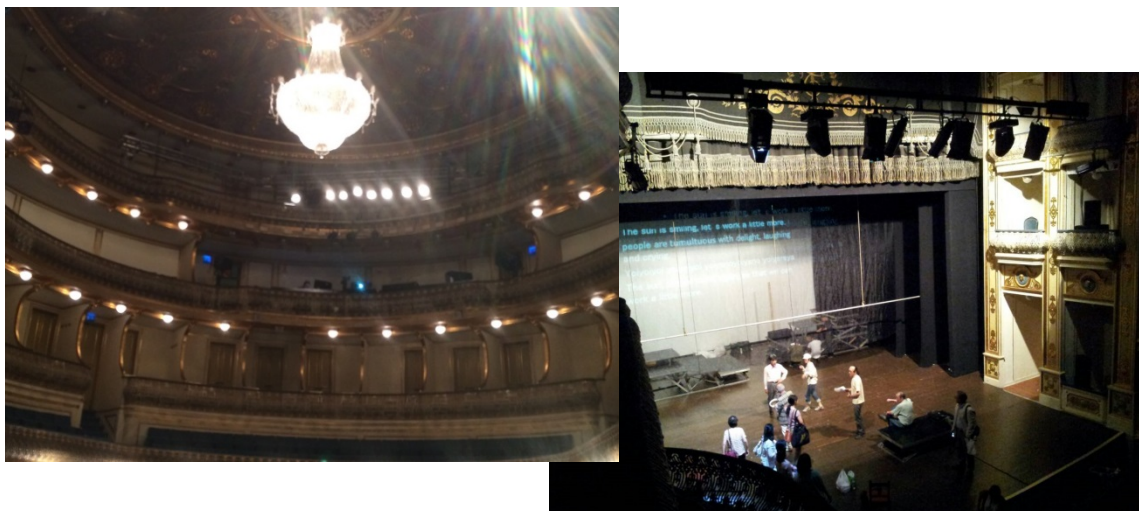
Warmest regards from Portugal!

Yours

Piñeiro Nagy

Artistic Director

<http://www.estorilfestival.net/>



エストリル音楽祭に宛てた監督からの感謝状

Dearest Nagy, my friends in Portugal,

After we received your special kindness in Portugal, we came back to Japan in safe with best feeling to all of you.

We are explaining what happens in Portugal to the people in Japan with joy.

I also want you enjoy and understand this Japanese opera.

I would like to know how you feel this Japanese opera so much.

Do you understand a little about Japanese Masurao (like Samurai spirit)?

How about my music? You like it?

Of course, we had many difficulties to show you this in Portugal, in such a short time to prepare.

We had have to keep our bodies condition and much more good support from Japan---

We had to train our chorus member more and more---

But because of your kindest cooperation we could show you the show so far as we could do.

One more important thing is, even if there were some problems between us because of language, we could work each other friendly for the best performance.

As a result you left your warmest feeling to us.

I don't have any other good words to show you our thanks.

Just tell you: We thank all of you very very much!

Maybe in a near future we will visit Portugal again with a good support from Japan to see and work with you.

I know also well that international cultural exchange is so difficult for each country

But we shall overcome this! Let's make a best friendship!

You Portugal and Japan have many important historical memories from more than 450 years ago.

Portugal is the most important country in Europe for Japan, we believe.

Therefore we want to make much more good cultural exchange with you from now on.

Because of my poor of English, I cannot show you my deep thank.

But I hope you understand me well.

Special thanks to:

Estoril Music Festival, Staff of Teatro Trindade, Hotel Vila Gale Opera, Lisboa city, Cascais city,
Japan Embassy in Portugal

Warmest kisses from Japan-----

Tokyo Opera Association

Artistic director

Edward Ishita

東大使メッセージ

東京オペラ協会の皆様、歌劇「天空の町」のポルトガル公演の成功おめでとうございます。
私も鑑賞させて頂き、大変感動致しました。

「伊庭貞剛」の生き方をおして、「日本人本来の素晴らしい心」のメッセージが伝わってきました。すなわち、「自然を心から愛し、畏敬し、人を思いやり、我欲を捨て、より大いなるもの(日本、世界、大自然)のために生きる」精神が、皆様の歌と音楽という人類の共通言語によって、ポルトガル人にも届いたと思います。

また、ヴィラ・ガラ・オペラ・ホテルでのディナーコンサートに、コスタ・リスボン市長が来られ、短時間ではありましたが、コンサートを鑑賞され、その模様が地元テレビでも放映されたのは、日本の歌、音楽、踊り等日本文化を紹介する良い機会になったと存じます。

更に、私事ではありますが、東京オペラ協会代表の石多様が私の中学、高校の同窓の先輩であることに「深き縁」を感じました。

東京オペラ協会は、既にポルトガルにおいて、天正遣欧使節をテーマとしたオペラ「忘れられた少年」の公演を重ねて来られていると伺っています。

是非来年もポルトガルの方々に素晴らしい歌声を聞かせて頂けることを心より楽しみに致しております。

2014年8月吉日

駐ポルトガル日本大使

東 博史



右から高川公使、東大使、監督、正法地氏

高川公使メッセージ

東京オペラ協会の皆様、素晴らしい公演をありがとうございました。終了後の会場全体からのスタンディング・オベーション凄かったですね。

日本の新聞で皆様のポルトガルでの公演予定を知りました。20年も前から何度もポルトガルで公演しておられるとは知らなかったので協会のウェブサイトを見て驚きました。しかも、ザビエルや天正の遣欧使節など、日本とポルトガルとの関係に縁の深いオペラを上演しておられるので大いに感銘を受けました。

天正の遣欧使節は、リスボンはもちろんエボラやビラビソウザ、かつて私が勉強したことのあるコインブラの町にも滞在していました。ザビエルと共に日本を発ちポルトガルに来た最初の日本人ベルナルドもコインブラで勉強していました。勉強といえば、エドワードさん、東大使、そして私の父（旧制中学）が同じ学校の出身というのも奇遇でした。

私自身も日本で多少の合唱経験がありましたが、全国各地に散らばって普段は余り一緒に練習をする機会のない皆様が異国の地で見事な演奏をされたのは感動的でした。是非、来年もこの国で素晴らしい歌声を響かせて下さるのを楽しみにしています。

最後に、今回の美しい『石多メロディー』に囲まれながら次のような思いを抱きました。

誰でもオペラ！

何処でもオペラ！

それでもオペラ！

高川定義@リスボン



正法地氏メッセージ

先週 土曜日の Teatro Trindade での 東京 Opera 協会 天空の街 Lisboa 公演には 高川 定義 様を通じて 御親切なお誘いをいただき 非才をも省みず 参加させていただきました。大変に楽しい 貴重な経験となりました。

心より 御礼申し上げます。

まともに なんとか 唄えたのは こんなに空が くらいで 星の歌では キララリ キララ のところをとちり また 子供たち では こどもたちよ かみのこらよ に続く 歌詞をとちって仕舞いました。 という有様で 周囲で唄っておられる皆様には 御迷惑をお掛けしたと恐れています。

皆様 御親切で 舞台裏での待ち時間にも 皆様が お声をかけてくださり 会話が弾み 退屈することはありませんでした また 出番直前には 的確な御指示をいただき 心配なく舞台にでることができました。

公演終了後 数時間の後には 空港へ出発されるという 超過密 Schedule で 皆様大変な思いを されたことと察します。

無事に日本へ帰着され 時差ぼけ から 次第に回復されておられることと察します。

どうか 団員の皆様に 深謝の意をお伝えいただけましたら有難く存じます。

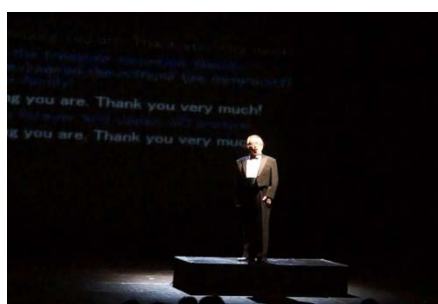
取り急ぎ 御礼まで

正法地 延光



蔵田雅之【広瀬幸平】

ポルトガル、リスボンはヨーロッパに住んでいた私にも未踏の都市です。今回はこの、天空の町、公演でこの街を訪ねられたことは大変意義深いものでした。リスボンは経済面が厳しいと聞いていましたが、町の様子からはわからないくらいで、活があり深い歴史を感じさせる街並みでした。劇場は更に感動的で、ロビーのレリーフには、ティト スキーパの名前がありました。スキーパが晩年リサイタルに訪れた劇場で、別子山の歌、を歌うことになるとは。和楽器とポルトガルのギターの名手たちの共演も素晴らしく本当に豊かな人生のひと時でした。



枝川一也【塩野門之助】

今回もみなさんとオペラができてとても幸せでした。

40年も歌を歌ってきたはずなのに、

何十本もオペラに出てきたのに、

みなさんと上る舞台は特別です。

歌うことの意味も知らず、音楽そのものでなく、

その周りに渦巻くものの中で、

プライドとコンプレックスに苛まれながら、

もがき苦しみながら生きてきたような私にとって、

みなさんはとてもまぶしい存在です。

いつもこころ洗われる思いです。

名歌手たちが歴史を刻んだ素晴らしい劇場に、

みなさんと共に立てたことに感謝しています。

いい歌がいつか歌えるように、

精進したいと思います。

かならずまた共に歌いましょう。

みなさんこそ、私にとってのユニバーサルデザインです。



國元隆生【旅人】

ポルトガル公演を終えて

ポルトガル公演では、大変お世話になりました。沢山の方と出会い、一緒に舞台に立ち、感動を共有することができたこと、素敵な劇場で歌うことができたこと、行ったことのない国を旅することができたことなど、かけがえのない素晴らしい体験をさせていただくことができました。音楽を通じて、このような体験をさせていただき、生きている喜びを改めて感じたところです。今後も音楽を通じて、素敵な出会いや体験に巡り合えるよう、精進して行こうと思います。



石多加代子【梅子】

ポルトガル公演、楽しかったですね。

皆様、お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

私にとって、大きく、重い荷物を飛行機に乗せてくれるかどうか、一番の心配事でした。今までも、飛行機に乗る時のこの一騒動が、外国公演での一番の難関だったからです。ここさえ乗り越えられればという思いで、行も帰りも臨みました。みなさんのご協力のお陰で何とか乗り越えられホッとしました。

ホッとしすぎてエレクトーンその他に保険を掛けることに気が回らなかったのは、私のミスでした。もっと前から準備しておくべきでしたのに・・・エレクトーンの足ペダルの故障は星川さんが見事修理してくださり、公演になんの支障もきたさなかったことは、不幸中の幸いでした。（ご心配かけましたが、修理代もそんなに高くなりませんでした。）

舞監を兼ねた廣田さんは、むこうのスタッフと通訳も付けず渡り合ってくださいだし、西田さんの字幕と映像も、野中さんとの絶妙なチームワークでむこうのスタッフに伝えることができ、無くなった荷物は、飛田さんが最後まで責任を持ってお世話してくださり無事に戻ってきたし、自由行動では白濱さんたちが、みなさんを引率してくださり、個々の練習では、色々の方がアドバイスを下さり、と本当にそれぞれの方のお力の結集でこの公演が出来たことを今更ながら感じております。そして枝川さんのお母様は、袴の着付けと

ビデオ撮影をしてくださいました。ありがとうございました。

エレクトーンと尺八と箏の伴奏。ここまでは、日本でも経験しておりましたが、それにギターが2本！初めは、えー！！と思ったものの、これもなかなか良いものでした。

ホテルでのディナーショーでの浴衣や、着物姿にお客様やホテルのスタッフも喜んでくださったみたいですね。荷物が重くなったでしょうが、これも良かったですね。結髪の佐藤さんは全員の結髪のほかに、着付けまでと大忙し！

日常を離れて、異国の言葉を聞き、異国の食事を堪能し、異国の人々と空気を共にする。観光はできなくても、十分にポルトガルを楽しめました。

又次の機会に備えて、今から練習と貯金を頑張りましょう。次の機会はそんなに遠くはないみたいですよ。

どこかの仙人さん、次もまた、美味しい食事と素敵なホテルのある、苦しくも楽しい、素敵な公演ツアーの企画をよろしく願いしますね！



吉井美幸【松】（オペラプラザ愛媛）

今回は、3年前のオペラ「忘れられた少年」ドイツ公演に続いて、私にとって二度目の海外公演でした。前回の「忘れられた少年」では少年役の一人でした。今回は松、というソロのある大役で、前回以上にとても心配でした。でも、共演者の皆様に助けていただいて、少しでも松に近づけるようがんばれました。ありがとうございました。

ポルトガルへ行ったのはもちろん始めてですが、2年前別子山で共演した監督の「息子さん」たちとも2年ぶりに今度はポルトガルでお会いでき、とても懐かしく思いました。こんな形で再び共演でき、とても不思議な思いでうれしかったです。彼らのギターの素晴らしいさは相変わらずで、前日の練習時にもミニ演奏会をしてくれたのですが、ギターのやさしい音色に心癒されました。こうして、世界各地に友達が広がってゆくことは本当に夢のようです。

これからも本物の歌唱力を身につけるべく、がんばりたいと思います。皆様、どうぞよろしくお願いします。

西田直人【品川彌二郎】(オペラプラザ愛媛)

祝、ポルトガル公演成功！！

新居浜での初演から2年余りで、ポルトガル公演が実現されました。

これには、石多監督並びにナジーさん他、新居浜初演に携わった関係者、これまでの天空の町の公演全てに係わってくださった方々が居たからこそ、今回のポルトガル公演の成功に繋がった事と存じます。

愛媛からは、和楽器奏者の2名を加えた総勢7名の出演を果たしました。

東博史日本国大使の話によると、来年もお招き頂ける事を伺いました。

来年は更なる完成度で、一人でも多くの方に、この歌劇の素晴らしさを伝えられたらと思っています。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。



田中真琴【エレクトーン】

ポルトガル公演に参加された皆様、お疲れ様でした。

これまでの海外公演もハプニングはつきものでしたが、今回はエレクトーンのリジストチェンジペダルがまさかの破損。頭が真っ白になりました。ですが、尺八の星川さんにその場で応急処置をして頂き、本当に助かりました。この場を借りて、本当にありがとうございました。

今回の伴奏は、尺八、琴、ギターにエレクトーン。とても素敵な皆様で、ご一緒出来て嬉しかったです。

そして、ポルトガルの美味しい料理とワイン。

ホテルも素敵で、まさかの8時間睡眠でした。

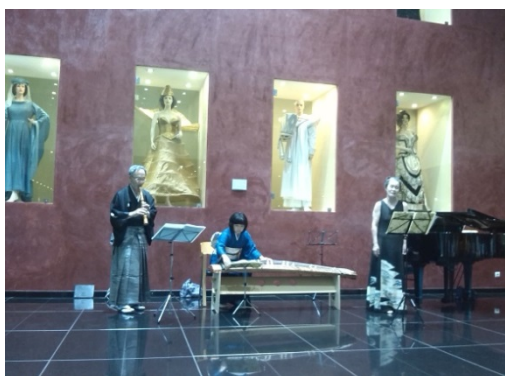
実家に預けて来た子供達や両親、伴奏のお話を聞いた時に迷っている私の背中を最終的にポンッと押してくれた夫にも感謝です。

そして、今回参加された出演者の皆様、お世話になりありがとうございました。

素敵な出会いに感謝しつつ、また皆様とご一緒できますように、頑張りたいと思います。

星川 千代洋【尺八】

以前、欧州公演に参加してとお誘いを受けた時には、お断りしました。めったに聴かれない方々に尺八音楽とはこういうものだ、と誤解されてはいけないと思ったからです。その後エドワードさんから、素人でも一生懸命演奏する芸はお客様に新鮮な感動を呼ぶ、星川さんも、あと少し力強い音を出せれば、とおだてられ参加させていただきました。結果的には、一生懸命に努力したという一種の達成感を味わえ、エレクトーンの修理でもお役に立つことができて良かったと思っています。劇場スタッフの手慣れた舞台作り、自然な音づくりを間近に見ることができたことも参考になりました。忘れられないことになったのは、グループ行動優先（一人では動けない）で少し遅刻してしまいましたが、日本大使館での夕食会でした。東大使は、「国と国の政治や経済における交流は、美術・芸能、食、祭り、各種の趣味の集まり・・・など、文化の交流無くしては考えられない。」というお話を、多くの事例を示されながら、解りやすく説明してくれました。「人生、元気に暮らすためにはいくつかの趣味を持つこと」、という私の内向きな趣味観を考え直さねばと思いました。今後文化ご関係者の皆さんと自信を持って取り組めるいいお話を伺えたと喜んでます。語学力のある方々に助けられましたが、とりわけ同室だった飛田さんは海外経験が長く、お土産の購入や朝のウォーキングを通じて、ポルトガル空気を深く感じる事が出来ました。お世話になった全ての方々に深く感謝し、感想文とさせていただきます。（昔2週間アメリカ出張の時は帰ると体重が3kg増えたのですが、今回は5日で2.5kg減っていました。）



鈴木 正志【巖山和尚】

サウダーデ——ポルトガル恋しや

ポルトガルに行きたしと思えど、ポルトガルはあまりに遠し。

10年来、そう思いつづけてきたところに降って湧いたような『天空の町』リスボン公演参加のお誘い。これぞ天の恵み、と飛びついたものの、彼の地に着いても厳しい稽古の連続で、いやはや、今更ながらに己の甘さを痛感するばかり。

石畳の坂道を登って下って、ホテルと劇場を往復する日々。あれよあれよという間に本番が終わり、出来がよかったのか悪かったのかさえ判らぬうちに一座の面々は大急ぎで空港行きのバスに。ようやく我に返った私は、音楽祭の芸術監督のナジーさんにこう言いました。

「私はもう一週間、ポルトガルに残ります。I'm in love with Portugal! (ポルトガルに恋してるんです)」

彼は私の手を取ってこう答えました。

「私もですよ。私も日本に恋しちゃったんだ。ずっと昔に。そして今も」

サウダーデ。ポルトガル恋しや、恋しや。

大島佳子【敏子】(オペラプラザ関西)

新居浜で「天空の町」に参加してから、色んな場所に行けるようになりました。旅行は好きだけど、ポルトガルは今回のような機会がなかったら一生行かなかったかもしれない国です。日本からは遠くて疲れるけど、行ってみると過ごしやすく美味しくて優しい国で、全然気負いなくいられる素敵な所でした。帰国してから余計にそう思います。

トリンダーデ劇場は面白かったな。外観はピンクで可愛らしく意外でした。でも、中は歴史を感じる豪華な造りで、オペラが贅沢な楽しみだったんだろうな、と想像しました。

びっくりしたのは、舞台そでの壁が薄いのか隙間があるのか、劇場の前の道を歩く人の話し声が聞こえてきたこと。一瞬我に返りました。

各地から参加された皆さんと練習したり、食事したり、買い物したり、合宿っぽいのも楽しかったです。尺八の星川さんに、「小川さまの庭園のシーン」の曲作りについて初めてお聞きしました。星川さんオリジナル曲だったんですね。セリフの長さに合わせてくださっていることも知り、今さらですが、感謝しました。また、皆さんが自由時間にあっちこっちへ身軽に出掛けて行き、夕食時間にも遅れて帰ってくるくらい満喫されているのは、ぜひ見習いたいなと思いました。

公演を観られた方々は、「天空の町」のメロディーを気に入ってくださったと思います。とても熱心に観てくださってましたよね。

本番の時間が遅すぎて、私は声が出ませんでした。彩華も、衣装を着て待機している舞台そでで寝ていました。それでも出番になるとしっかり演技している子ども達に、一番感動していました。行ったらどうにかなるか、と気楽に参加しましたが、やっぱり行って良かった！加代子先生をはじめ皆さまにはお世話になりました。こんな貴重な体験をさせていただいたこと、本当にありがとうございました。



原田 恭子【心の精】(オペラプラザ福岡)

言葉が通じないところで公演するのは初めての体験でした。少しでも通じたらいいなと思いつきながら歌いました。

終演後遅い時間にもかかわらず、てきぱきとかたづけをしてくださる劇場の方々が忙しい中にも笑顔で接してくださり、ありがたく思いました。公演までのたくさんの方々のご尽力に感謝の気持ちでいっぱいです。

リスボンの町は、美味しくて親切な所です。ギターの優しい音色もよく合うタイルの町並み、もう一度食べたい豆と鰯の何とかや、親切にバスの乗り方を教えてくださった方や・・・いい思い出がたくさんです。

オブリガータ。

有馬 沙里【心の精】(オペラプラザ愛媛)

オペラを始めて4年目でまさかポルトガルに行けるなんて思っていませんでした。弟と2人で生まれて始めて飛行機に乗り、親がいない中でも何とかやっていけたのではないかと思います。観光も楽しかったのですが、私自身今回の公演では今まで以上にいい結果を残したいという強い思いがありました。いつも監督に言われることがすぐには出来ませんが、練習を重ねるごとに不意に気付き分かったような気になることがあるのです。今回のポルトガル公演でも、何か得るものがあつたのではないかと感じます。また、次のヘンゼルとグレーテルに向けて、頑張りたいと思います。



松永尚子【幾久子】（オペラプラザ長崎）

恥ずかしながら、初めてのヨーロッパ、初めての海外公演。少し緊張して出掛けたが、ポルトガル、歴史を感じさせるテアトルトリンダーデでの舞台、舞台設定で忙しい先生とスタッフを残して観光に出かけたシントラ、ジェロニモス修道院、Discoveries Monument、それぞれに人間の喜び、悲しみの流れを感じながら、せめてそのなかで一粒の石ぐらいではありたい～、この仲間で楽しく歌いたいと～。きっと、同行させていただいた皆さんのお陰でそう感じられたのでしょう。

越知 紀子（オペラプラザ関西）

娘 澄怜の「ポルトガルに絶対に行きたい」の一言から私の悩みが始まりました。オペラ協会に入って一年ちょっと。まだまだ未熟で戦力にならない私が行くのは厚かましい、行ってもいいのかと悩みました。

加代子先生に「一緒に行きましょう」と言っていただき決心しました。でも決心したものの最高の舞台を作るには私はいないほうがいいと思いながらの出発でした。

でも今は「行って良かった・」の一言です。他県の皆様とお会いできパワーいただき、思い出も沢山出来ました。目には石畳の美しい風景が、耳には九州のお姉様の笑い声と「よか よか」の声が・・・

最高の一週間でした。

大島阿子（オペラプラザ関西）

ポルトガルで天空の町の公演があると聞いたとき、まず、「どこにあったっけ？」と地球儀を見て探したり、歴史の教科書で出てきた織田信長の時代の鉄砲伝来を思い浮かべたりしました。行くまではポルトガルには詳しくなかったのですが、5日間過ごして、クラスメートよりは良い所を知ることが出来ました。

日本語で文字が書かれたちょうちんを見て、「遠い国でも日本は認識されているんだなあ」と思ったり、ホテルで一人で歩いていると、「ようこそポルトガルへ！」と言ってもらったり、発見や楽しいことがいっぱいでした。

発見したことといえば、「スシバー」と書かれた店に入ると、お寿司はもちろん、ごま団子や八宝菜から中華料理もあって、アジアで一まとめされていて、少しおもしろかったです。公演の練習中や自由時間でも色んな人のやさしさに触れた海外公演となりました。ありがとうございました。

中村芳子（元 オペラプラザ長崎）

「憧れのポルトガル リスボン トリンダーデ劇場に立つ」

私は時間があると、オペラのDVDを観ていて、オペラハウスに憧れていました。一度でいいから本物のオペラ劇場を観てみたいと常々思っていました。

今回実現。トリンダーデ劇場のいままでの歴史が肌で感じられました。

“劇場を観にて舞台に立てる” まるで夢のような旅でした。

「天空の町」で全国のメンバーと共演させて頂いた事、とても楽しく実り多い日々でした。それに今回、午後より時間を頂きましたのでシントラへ。ペナ宮殿見学。ヨーロッパ、アフリカ、インド、中国、中東と混り合った、何と表現していいのか分からない建物に驚きを感じました。異文化に接し、こういうのも有りなんだと自分自身を納得させました。

宿泊も、ビラ・ガレ・ホテル。 お部屋も快適で、しっかりお食事も頂きました。

帰り、飛行機乗継の為時間が約5時間あったので、オランダ、アムステルダムでの待ち時間を利用して、市内にタクシーで繰り出しました。

長崎オランダ村を大きくした街でした。(笑) 運河は長崎オランダ村が、きれいです。

(笑)ポルトガルと比べて豊かで、若者の姿が目立ちました。教会でパイプオルガンの演奏を聴き、オランダ王室の歴史を垣間見てきました。

そうそう、9年ほど前のポルトガル公演「忘れられた少年」で一緒に歌った若人がカップルになり、赤ちゃん誕生と聞き、再会できたのと、新しい命の誕生にとっても嬉しかったです。

今回誘って頂き感謝致しております。是非、又、行きたいです。そして次回は他のオペラも鑑賞したいです。

メンバーの皆様、大変お世話になりました。エドワード先生、加代子先生、本当にありがとうございました。



川口優子（オペラプラザ長崎）

ポルトガルでの歌劇「天空の町」公演に参加された皆様、こんにちは！その節はお世話になりました。

カラっとした凌ぎやすいヨーロッパの夏と違い、蒸し暑い日々をすごしています。ポルトガルの雑踏や練習風景を思い出しますね。ナジーさんや奥様、二人のギタリスト、以前長崎の「忘れられた少年」で共演し、今はご夫婦となられた方々との再会もあり、とても嬉しいものでした。日本の仲間のみならず、世界の方々との再会を喜び合えるなんて素敵なことです。

農婦の役をさせていただきましたが、嫁ぎ先が農家ですので、米やみかんをコツコツと作っていた義父母の姿を思い出しながら、演じました。そして生活の糧となるものが作れなくなることの死活問題の怒りと重なりました。それで胸が熱くなり、義父母への感謝の思いを起こさせていただきました。

近所の方から餞別を頂き、添え書きに“世界に羽ばたくゆうこさん、心豊かに楽しんでください”とあり、（ウワー大そうにかいてある一）と戸惑ってしまいましたが、有難くお気持を頂きました。笑顔の方々のなかで楽しい公演の旅となりました。石多エドワード先生、加代子先生のご尽力を頂き有難うございました。たくさんの方々にも、お力を頂きましたことお礼申し上げます。又元気で会いましょう。

山下恵美（オペラプラザ長崎）

オペラの海外公演は、初めての参加でした。体力も含め、皆さんに付いて行けるか、迷惑をかけないか心配でした。誘っていただいて、決心がつけました。

7月29日出発、リスボン空港に到着して思いもかけないことが起こりました。私のスーツケースが見つからず「どうして、どうして????」の気分でした。夜遅くに皆さんを待たせていることに、気がきではありませんでした。結局最後まで見つけることができず、飛田さんが色々と手続きをして下さいました。感謝致します。枝川先生も空港で待っていて下さったと、後で知りました。ありがとうございます。落ち込むわたしを心配して皆さんが声をかけて下さいました。

翌日のディナーコンサートでは、友達が大切な洋服を貸してくださって、嬉しく思いました。そして2日後、あきらめていたスーツケースがホテルに届きました。皆さんの「よかったね」の声かけにホット致しました。

いよいよ歴史を感じるトリンダーデ劇場での公演。私はこの舞台に立って楽しく歌わせていただきました。エドワード先生、加代子先生、オペラのみなさん、素敵な思いでをありがとうございました。

辻村一平（オペラプラザ新宿）

僕は今回のポルトガル公演が初めての外国での舞台でした。さらに今回は久しぶりに役を与えられて、とても不安でした。それでもポルトガルに着いてからも何回か練習することができてよかったです。その練習があったので本番でも台詞の失敗はなかったし、少しは上手くなったと思います。台詞の練習をしているときに、それぞれの役の背景を教えてもらったのですが、その気持ちになって表現するというのも大変でした。合唱では、少し歌詞を間違えてしまって恥ずかしかったです。できれば、全員での練習をもう少しやりたかったです。公演全体としては、とても好評だったようなのでよかったです。今回は、少し忙しかったけど、観光することもできて楽しかったです。できたらまたいつか海外公演に参加したいです。



有馬大援（オペラプラザ愛媛）

オペラに入って、2回目の公演がポルトガルなんて思ってもいませんでした。トリンダーデ劇場は、日本と全然ちがって素敵で、演技もよく出来たと思います。ポルトガルの町を歩いたり、四つ星ホテルに泊まったり、石頭節のかごを背負わされたり、いろいろといい経験になりました。友達もたくさん増えたので、これからもがんばっていきます。



大島彩華（オペラプラザ関西）

最初は外国でやるから少しきんちょうしたけど、成こうしてよかったです。

子どもが3人と聞き、少ないような気がしたけどすごく楽しかったです。

ごはんも食べたことないものも食べたりできてよかったです。食べたことがあるものもあったから、いろいろ、朝、昼、ばんごはんがきちんと食べられました。

一番おどろいたのは、外国で「おすし」が食べられたことです。楽しかったです。



【エドワード親書より】

ポルトガル公演を終え

日本の関係者の皆様にご報告申し上げます。

すでに情報は流れているかもしれませんが、私から報告させていただきます。

国内の公演でもいろいろなことが起こるのですから、まして海外での公演はさまざまなハプニングや事件？が起こるのは当然といえばそうですね。

今回はポルトガルで一回公演のみだったので事件らしいものは、それほどありませんでしたが、やはり一番の事件は、エレクトーンのペダルが飛行機での移送中に壊れていたことが公演会場のトリンダーデ劇場で判明し、みんなで慌てふためいたところを星川様が見事に修理してくださったことでしょう。関係者の皆様、「神様、仏様、星川様」とこの一年くらいは唱え続けましょう！思い出せば、天空の町を育てる会の新居浜発足式でもキーボードの電源コードが壊れたのをさっと直していただいたこともありました。本当に本当にお世話になりました。

さて、反省を込め、ゆっくりツアーを振り返ってみます。

7月28日の夜、全国からのメンバーで福岡は中央市民センターで練習しました。初めて会うメンバーもいましたのでどうなるか楽しみでしたが、予想通り、みんなすぐに打ち解け元気に練習しました。ただ音楽室がやや狭かったことと、時間が足りなかったこともあり、十分な打ち合わせが出来たとは言えなかったですね。

問題のエレクトーンの梱包も翌朝に持ち越されました。

この後は解散して、中心メンバーはこぞって夜食を食べに行きましたが、すでに夕食を終えた人たちはどこかにこっそり博多ラーメンを食べに行ったとかー。まあいいでしょう。



当日は、福岡空港で8時ごろから集まり、舞台道具やエレクトーンを運ぶことでの交渉に石多加代子が奔走。慣れないことをさせてしまう僕がいけないのですが、彼女の交渉の成果もなく、舞台道具運搬費はしっかり取られてしまいました。運搬費用が発生するかについては旅行会社のHISが当日空港でしかわかりません、とおっしゃっていたので仕方なかったのです。

この日の早朝、廣田さんと直人さんがエレクトーンを梱包してくださり、ほかの荷物とともにレンタカーで空港に運びこみました。

今までの海外公演では航空会社と直接交渉して移送費もただにして頂いたことが多く、それを期待していたのですが、手続きが楽になるだろうと旅行会社に入ってもらったことでかえって難しくなったようでした。

とにかく飛行機に乗り込みました。三十数名、オランダ航空 KLM です。

しかしみんなの席がばらばらで、女たちや旅人の相手の子役たちには機内で更なる練習を指示したものの難しかったですね。でも、食事はまあまあよかったように思います。

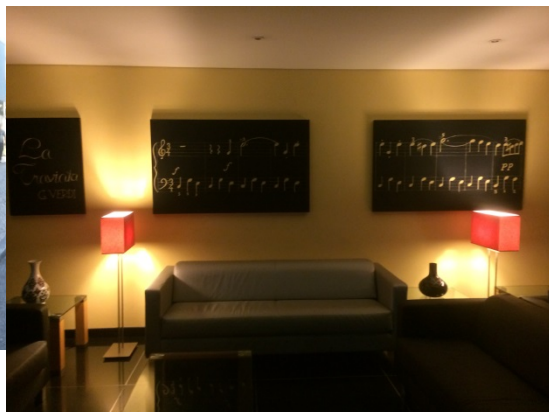
朝からぐっすり眠る人はそういなかったと思いますが、前日からの疲れで何人かはー。12時間後アムステルダムに着きましたが、ここでまた5時間の待ち合わせ時間が。ポルトガルには直行便が今はなくなってしまったのです。買い物したりぶらついたたり、台詞や

歌を勉強しなおしたり、時間は自由な使い方をしてすごしてもらいました。

約束した集合場所に集まり、今度はリスボンへ。

リスボンには何時間かで着いたのですが、出国手続きにまた時間がかかり空港を出たのが夜中の12時ごろ。カシュカイス市からのお迎えのバスに乗って宿泊先ホテルに。

ホテル名は、**Hotel Vila Gale Opera** という4つ星の高級ホテル。オペラと名前があるとおり、オーナーが大のオペラ好きで我々を受け入れられたのでしょう。



現地時間の30日朝。

早々と朝食をとる者もいれば、当然ながら起きて来られない者もいる。

しかし、さすが四つ星のリッチなバイキングです。皆も嬉しかったでしょう。

東京オペラ協会の海外公演では、そう贅沢な食事はさせて上げられないものですから、海外公演常連の方はちょっと嬉しい驚きだったかも知れません。

舞台スタッフはトリンダーデ劇場で関係者と打ち合わせでしたが、ここで冒頭のエレクトーンのペダルが壊れていたことが発覚して騒ぎになったのです。神様、仏様、星川様——！

みんなは自由時間の後、昼食、そして15時から夜のディナーコンサートのため練習。

ディナーは19時からに早めてもらって、食後は直ちに20時からのコンサート準備。

和服をなるべく着るようにという監督からの指示もあり、髪結いさんも活躍して一同は日本一色に。

コンサートが始まるころ、リスボン市長がテレビ局や新聞に伴われていらっしゃり、別子山の伝統芸能しょうがえな踊りと別子音頭を披露させて頂きました。市長もさすがに興味深げにご覧になり、記念撮影にも参加されました。当然ながら私も市長に深い感謝の意を表しました。リスボン市も協力してくださって今回のリスボン公演も実現したのですから。またこのホテルのオーナーも聞きにいらっしゃっていました。

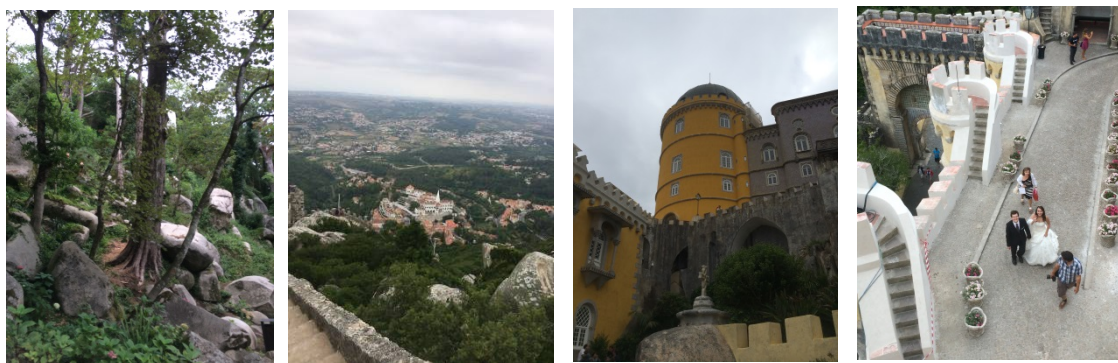
それに忘れてはいけません、東博史日本大使も夕食からお付き合いくださり、高川定義公使とともにコンサートをご覧いただいたことも触れておかねばなりませんね。東大使は私

の出身高校の後輩だったのです。

市長がお帰りになられた後も、私たちのコンサートは続き、この時ばかりは日本一色になったホテルでした。枝ちゃんこと枝川先生の初恋、星川千代洋、杉原地歩、そして石多加代子による秋の調べ、そしてフィナーレは天空の町のハイライト。初の海外演奏はヨーロッパでもポルトガルリスボンで一ー。あの高級ホテルにいったいどう響いたことでしょうか？



翌31日は、皆はシントラ観光。シントラは天正少年使節ゆかりの地で私も何度が訪れた懐かしい場所なのですが、皆に同行できず残念でした。私たちスタッフは当然ながらトリンダーデ劇場で照明などの打ち合わせに。舞台監督の廣田さんにはとても頑張って頂きました。劇場に同行した英語の字幕スーパーを家族徹夜で作ってくれた直人さんにも感謝ですし、ピアニストの野中さんには何と、映像プロジェクターを担当してもらいました。彼女が英語が出来たため、助かりました、ありがとうございます。使えるものは何でも使う監督であることは、覚悟してご存知であったでしょうが。



皆がシントラからホテルに戻る頃、私と石多加代子と枝ちゃんと三人で大使公邸の晚餐会に。シントラに同行した星川さんは後で到着。

高川公使、星川千代洋、枝川一也、石多加代子、各氏を加え、計6人での晚餐会でしたが、超豪華な和食で驚きました。最高級の結婚披露宴の食事のようでした。皆様の血税を使わ

せていただいたわけですね。日本料理の数々はもちろん、白のポルトもおいしかったです。ワインは実においしかったです。そしてとびっきりは枝ちゃん在住の広島の上の日本酒でした。オバマ大統領が来日したとき飲まれて「おいしい」と言ったために有名になったお酒で、皆様もご存知でしょう。私はこれからがあるので、控えめに飲ませていただきました。

前述したとおり東大使は私の出身高校の後輩であることを伺っていたので、何か親しくさせて頂いたのかも知れません。来年はジャパンフェスタがポルトガルであるので、再度是非お招きしたいとのことでした。嬉しいですね。いい条件作りをして招いていただけますよう願います。



8月1日からは皆も昼からトリンダーデ劇場に集結して練習。スタッフは朝から劇場でいろいろな打ち合わせ、もちろん休養などもってのほか。ミクロデュオという名のポルトガルにいるすばらしいギタリストグループ、ミゲルとペドロも参加しての練習が始まりました。二人とは3年前に師匠のピネイロ・ナジーと同行して来日して東日本大震災のチャリティーコンサートを日本各地6箇所開催したときに、日本のお父さんになってくれと頼まれたことから、親子縁組したのです。

ここからハプニング。夕食に一度ホテルに戻って、夜には再度劇場にみんなで来て灯り合わせを入念に、と思っていたら、何と夜は仕事が出来ない18時でおしまい、と言われたのです。会場も貸せない、誰もいなくなるから、とのこと。

確かにスタッフはよくやってくれていたのですが、おそらく労働規定がしっかりしていて、朝、昼、晩、と働くことは法律違反なのかもしれません。

仕方ないからホテルに戻って夕食後、誰かさんが何とか交渉し、ホテルで練習場を貸していただけるようになり、ほっとしました。

さて、私の息子たちが来ているので、練習前に何か演奏するよう頼み、あのすばらしい演奏を2曲も披露してくれたのです。演奏の様子は誰かが録画していたので申し出てください。彼らが出しているCDがあるのでみんなに紹介しましたが、10ユーロなので希望者は買ってくださいとお願いしたら15人から希望があったようで、息子に少しだけ貢献できたかな、と思いました。帰国してCDを聞いた感想は、ホテルで演奏してくれたのは楽しか

ったけどこの CD は暗くてー。というのがありましたが、現代音楽なのでお許してください。息子たちには伝えておきます。しかし、現代音楽にも精通する監督は興味深げに聞き入っていました。

その後の練習は、問題が目立つところを抜き出して集中してやりました。台詞が乱れがちだった女たちについて、短くカットしようかとも思いましたが、一応予定通りにして、頑張ってくれるよう頼みました。旅人と子供たちもうまく出来そうに感じていました。合唱の音の乱れは男声中心に少し直せたかなと希望を持ちました。心の声のアンサンブルも何とか大丈夫だろう、とすべて明日への希望に託してー。

私たちは全国から集まる、という宿命があります。やはり、各地の普段の練習でどこまで頑張れるかですね。舞台に不安は付き物ですが、だからこそ謙虚に誠実に自分の努力を重ねましょうね。僕も自戒しています。



さて、当日。

朝は例によって労働できないとのことで、昼食後劇場で灯り合わせをしました。専門の舞台監督と照明家を同行できなかったのも、この 4 日間廣田さんや石多加代子は多少英語が出来るとはいえ本当に大変でした。本番でも出演しながらのキュー出しをしていました。僕も手伝いかけたのですが、さすがにそれは、と石多加代子が代わってキュー出しに加わってくれたわけです。

一度ホテルに戻って夕食を済ませたのですが、21:30 開演で終演は 12 時過ぎ。劇場を出られるのはおそらく夜中の 1 時、今夜は寝ずに飛行場に向かわなくてはならないので、みな帰国の準備を済ませておかなくてはなりません。

帰国の準備を済ませて 8 時ごろバスに乗り込み劇場へ。150 年前に出来たというこのトリンダーデ劇場ともこれで暫くおさらばです、皆、それなりの思いを持って開演を待ちました。

私はもちろんひどい状態でしたが、何と枝ちゃんのお母様が私の着付けを手際よく見事にやってくださったのです。本当にすばらしい親子です。(微笑ましい口喧嘩もあったそうですが、それもいいですね)

幕が開いて、お客様が案外少なかったことに少し驚きましたが、8月にはいると地元の人たちはみんなバカンスでいなくなってしまうことを考えると仕方ないのかもしれないかもしれません。それとは無関係に、みんな全力で演奏！

まず自己反省。あの体の状態で私にはもう、気合しかありませんから、一心に日本のますらお、を歌い演じ切れることだけを念じて舞台にいました。皆さんの心の隅っこのからのそっとした応援ありがとうございます。音楽祭芸術監督のナジーさんが、「あなたこそ本当に日本のますらおだ」と言ってくれた時には、ちょっとホッとしました。しかし、引退して後進に道を譲る、この言葉がだんだん大きく広がってきたのも感じています。

蔵ちゃんこと蔵田雅之。ミュンヘン公演の実現をなかなか諦め切れなかった私のために、ミュンヘンから前日入りせざるを得なかったこと、申し訳なくお詫びします。いつも相手をしていて思うのですが、毎回演技が新鮮で楽しく共演でき、私の広瀬像を見事に演じてくれ本当にありがとうございます。エレクトーンとの細かい打ち合わせ時間が少なく、アリアなどもっとじっくり歌わせてあげたかったと反省しています。

枝ちゃんの枝川一也。蔵ちゃんの親友、悪友ですが、枝ちゃんのすばらしさは歌唱力もちろんですが、優しいお人柄がなんと言っても大きいですね。実は本番で僕の声が危ないと思い「去り行きし友へ」は即興で二番もソロにしてもらい歌ってもらいました。ごめんなさいね。でも、毎回可愛いマサさんと楽しく演じられるのを、いつも微笑ましく舞台上で見えています。

石多加代子。先ほど触れたように舞台のキュー出しまでしてもらいましたが、声も調子よく、私をカバーもしてくれたように感じていました。そもそも海外公演するときは、少なくとも数日前に現地入りして体調を整えるのが当然なのでしょうね。忙しい皆さんを同行するときの困難を思います。

初演以来の旅人、国元隆雄。あの三人の子供をよく引っ張ってくれました。誠実なお人柄に加えていいバリトンの声、これからも楽しみにしています。

田鶴子の中島貴子。びわ湖公演で久しぶりに参加していただき、ポルトガルにもご同行いただきました。さすがに安定した存在感のある歌と演技でしたね、よかったですよ。

結城孝一の長兵衛。

忘れられた少年での名秀吉以来のポルトガルでしたね。楽しい演技が今回も光っていました。何しろ結城さんは、当会の初演の頃からの一番古いお付き合いなのです。ありがとうございます。この次はコーラスのお手伝いも、もう少しだけ増やしていいでしょうか？

吉井美幸の松。中音をしっかり響かせられる課題にチャレンジ中ですが、少しずつ少しずつですが、進歩はしてきているようです。多くのソプラノは中音を響かせるために声帯を鳴らすことに向かいがちなのですが、中音で体を開けておけるよう腹筋、背筋、側筋などを鍛えて呼吸を自由にコントロール出来るようにしましょう。弟子としてだけではなく、いろいろなお手伝いを率先してよくやってくれて感謝しています。

森の精の兵藤好美。オペラプラザ南予支部長として頑張ってくれていますが、ポルトガルまで遠征するとは思いませんでした。如何ですか、ポルトガル公演の感想は？森の精は安定してきて不安はありませんでした。エレクトーンとの合わせの時間が十分持てなかったのは蔵ちゃんはじめ、みんなも少しずつは思っていたかな？新しい会場での音響のこともあるし、難しいですね。でも、会場の音響担当、ツイ・サントスさんもよくやってくれていましたね。

西田直人の弥次郎。天空の町については、もうベテランなのでいろいろなところでも活躍していただきました。直人さんがいなかったら字幕も出せなかったし、大変でした。ありがとうございます。字幕作りには奥さんの景子さんも徹夜で手伝ってくださったとか、感謝のみです。歌も発声がよくなってきているので、これから楽しみです。

田中真琴のエレクトーン。エレクトーンという楽器は便利だけど、不安も付きまといました。彼女には長年教えてきたこともあり、私の音楽をある程度任せられるのでいいのですが、エレクトーンは音の仕込みだけでも相当な労力を要します。その上、今回はポルトガルへの移送で事故が起こったわけです。

さて、その救いの神の尺八奏者、星川千代洋。演奏としても今回はなかなかの出来でよかったと思います。詩吟のシーンでも私の不調をカバーして頂けたかも知れません。ポルトガルの方々にとっても尺八は興味深かったことでしょう。オペラで国際交流を目指す以上、やはり日本の音楽をしっかりとりの作品でありたいですね。星川さん、ご同行いただき本当にありがとうございました。

杉原知歩さんのお琴。今まででやはり一番よかったと思います。気合も入りましたか？これからもさらに精進しましょう。

廣田修には舞台監督と大島を。舞台監督は本当に大変でした。その上、照明のキュー出しまでやってもらいました。僕もプロローグやエピローグではキュー出しをするつもりだったのですが、大変で石多加代子に代わってもらった経緯があります。いったい何人の人に迷惑をかけながらの舞台なのかと呆れますが、責任はすべて私にあることは間違いございません。とにかく、廣田さん、ご苦労様でした。この次は、十分な資金を得て英語が自由な舞台監督や照明家を連れてゆきましょう。そうか、みんな英語をもう少し話せるようになってみませんか？（まず美しい日本語を学んでほしいところですが）

近頃、峨山で売り出し中の鈴木正志。今回は子供が少なかったのもちょっと物足りなかったかも知れませんが、毎回新たな工夫をしていただき、楽しませてもらっています。歌や舞台の奥深さは無限のものがああります、これからもじっくり追求してゆきましょう。側面からの大応援、感謝しています。

トビーこと飛田恵吾の田向重衛門。いつも多少の不安を感じさせながら、何とか頑張ってくださいています。声はかなり響くようになってきましたので、後は呼吸をしっかりと安定してらくらくと歌えるよう頑張りましょう。通訳など、ご苦労様でした。

同じく、りっちゃんこと、白濱律雄が小川治兵衛に急遽参加していただきました。大きなバスの声も貴重ですが、通訳や旅なれた経験で皆を助けてくださり、ありがとうございます。さらに発声を磨かれ、みんなと楽しく歌ってくださることを望んでいます。

忘れてはならないのが、初めて海外に出かけた耕之助の辻村一平。朴訥な人柄がみんなに愛され、歌も演技も今回さらに成長し、本当にいい経験になったのではないかな？まだまだこれから伸びてくるのが目に見えるようです。頑張ってください。

大島佳子の敏子。オペラプラザ関西を支え、びわ湖公演を成功に導いた第一人者ですが、今回もオペラプラザ関西から五人で参加してくれました。敏子は、まあ慣れて来たでしょうが、りっちゃんとのコンビは如何でしたか？

関西から越知紀子。歌だけでなく手の不安も抱えてのポルトガルだったかと思いますが、澄伶ちゃんと海外で共演、楽しんでいただけたかな？すばらしいお人柄で、そばにいただけで皆もきっと優しい気持ちになれたのではないのでしょうか？これからもよろしく。

大島阿子には子役の 3 人を主に引っ張ってもらいました。声も随分出るようになっていくので、歌でもかなり戦力になってきたかと思います。演技も頑張れるので、これからは

らに大きく脱皮してってください。

さて、大島彩華、越知澄怜、有馬大援の三人の子役。初めて会ったのにさっと打ち解けて、瞬く間の名トリオ。大援の面白さは天下一品ですが、彩華と澄怜もなかなかの者、國元君と練習を重ね、息もぴったり合ってきましたね。（四人での特訓中にトリンダーデ劇場のロビーにあった置物を壊してしまったときは驚きましたが、劇場側からのご好意か、いまだに弁償を請求されていません。請求が来ても心配は要りません。）それより、三人とも今回の海外公演で何を感じているかな？その気になれば無限に学べたものがあるだろうし、いつかふとした時に今回の経験が蘇ることもあるでしょう。三人ともよく頑張りました。

大援のお姉さん、有馬沙里には心の精にチャレンジしてもらいました。ずっと教えてきましたし、勘がよくて吸収も早くもう一人前の声になってきて、これから大きく成長してゆくのが目に見えるようです。素敵な大人になって、素敵な歌と演技と踊りで人々を幸せに行ってね。ポルトガルで思い切りのびのびしている姿が可愛かったよ。

福岡を代表して、事務局長の原田恭子が心の精。オペラプラザ福岡をまとめるだけでなく、いつも衣装などいろいろなお手伝いを率先してやってくれて感謝しています。心の精もよく引っ張ってくれていました。ポルトガルは如何でしたか？また、因みにポルトガルのワインは如何でしたか？

オペラプラザ長崎からも。

松永尚子。歌はもともとしっかりしたものを持っていたましたが、最近さらに声が伸びてきて楽しみでした。幾久子もよくやっていました。

坂田直子はいつもの一番大変な衣装係。文句ひとつ言わず、みんなのためにひたすら衣装を守り続けてくれています。みんなで感謝のエールを送りましょう。

山下康子は心の精に。声もかなり出るようになってきて、兵藤さんとアルトをよく歌っていました。動きもこなれているので、これからも頑張って楽しんでください。

中村芳子は八女から。元気のいいお姿は今回も絶好調でしたが、歌も丁寧な歌い方になってきて、成長を感じていました。やはり努力あるのみ、かな。

山下恵美。波佐見から頑張ってよく来てくれました。やはり経験を詰まれてきて少しずつですが、いろいろとよくなって来ているのを感じます。頑張ってください。

川口優子。今やヴェテランになってきて、演技も楽しんでいらっしゃるように感じます。これから呼吸を鍛えるともっとよくなりますよ。

そして野中まゆみ。ピアニストなのに何と英語の力を認められ、映像担当にさせられてしまいました。直人さんの指示で要領をさっと掴んでくれて本当に助かりました。コンサートで石多加代子のピアノ伴奏をしてもらい、本職も生かしていただき、ややホッとしています。ありがとうございます。

佐藤ていこ。髪結いでポルトガルまで来ていただきました。見事な手さばきでみんなの髪を次々と纏め上げていかれるのには、さすがプロの技を感じます。ありがとうございます。



ここで、トリンダーデ劇場で活躍してくれたポルトガル側のスタッフを紹介しておきます。劇場の技術主任は Hugo Paulito。舞台主任は Nuno Perira。照明担当は Sergio Pereira。映像ビデオ協力は Adriano Silva。舞台技術に Luis Filipe e Tiago Cortez。などなど。彼らのご協力には、リスボン市長のアントニオ・コスタ氏らのご支援があったことは忘れてはなりません、すべてのポルトガルの皆様に深い感謝を改めて申し上げたいと思います。

そして終演後に戻ります。

翌朝 5 時の飛行機なので、12 時過ぎに終わってホテルに戻り、シャワーを浴びるのが精一杯で、みんな二時前に集合しカシュカイス市派遣のバスで空港へ。荷物については大変でしたが、とにかく全員が無事飛行機に乗れました。ナジー監督や、高川公使も空港までお見送りくださり、恐縮でした。皆の多くは眠りに――。

そして、アムステルダムでまた五時間の休憩。その間、勇気を持ってアムステルダム市内にタクシーで向かった面々もありましたが、多くは空港でリラックスタイムに。

無事みんなが再集合し、福岡空港行きの KLM に搭乗。そして、眠ったり、機内を散歩したりの 12 時間。仕方ないけど、否応なく眠れたでしょうか？

福岡空港では、エレクトーン破損について交渉したものの、事故証明だけは出してもらって後は保険会社と交渉。しかし、福岡出発時にあまりの忙しさのため、ついエレクトーン専用の保険をかけ忘れたので、個人の保険に頼れないか考えてもらいました。しかし、結局は難しいことがわかりました。

しかし後日、お借りしたヤマハ様に修理の見積もりをお願いしたら廉価だったので助かりました。

関係者の皆様、いろいろご迷惑をおかけしました。

空港で軽く解散式をして、それぞれの自宅への帰途に。

時差ぼけが早く直りますよう、願いながら。

最後になりますが、20 年余りにわたって芸術上の理解者として友情を深めてまいりました、エストリル音楽祭の芸術監督であるピネイロ・ナジー氏のことだけはご記憶ください。詩人の奥様ドゥルセさんともそうですが、ポルトガルには沢山の友人たちが生まれました。

3 年前の東日本大震災のため日本各地 6 つ箇所で開催したチャリティーコンサート（私と石多加代子が共演）でナジーさんに同行した弟子である二人のギタリスト、ご紹介したとおり、ミゲルとペドロから日本のお父さんになってくれと頼まれ、快諾した経緯もあります。

さらに 4 年前にポルトガルのシネス、セトゥーバル、リスボンなどで開催されたオペラ「忘れられた少年」に共演したコーラスグループの代表も見に来てくれていました。

ナジーさんとともにポルトガル公演を支えてくださった故小林清先生（柔道九段）のお嬢様幸子さんもお手伝いいただいています。

こうして、ポルトガルとのお付き合いは深まってきたわけです。このように友人が多くなってきた国とは戦争を起こしたくなりますよね。オペラで世界中に友人を作ってくることが私の仕事、と申し上げてきたことの一端がお分かりいただけたでしょうか？

それなのに今回、私に余裕がなく、全ポルトガルにいらっしゃる方々をお招きできる余裕がなかったことを申し訳なく思っています。

それにしても天空の町にとって今回の初海外公演。どなたのおかげで出来たといえば、歌劇「天空の町」を育てる会の、酒井実会長、清家洋一副会長をはじめとする会員の皆様のお陰だったと思います。ついながら私は今までの 40 年近いオペラ活動での数限りない支援者の皆様をお願いして、その人脈を使わせていただいて、実行させていただいています。私の力ではなく、ご支援いただいた方々の、この作品への純粋な愛のお陰だと思います。純粋な愛には、純粋な愛でお応えするだけです。



その一方、私の願いがなかなか皆さんに届かないことに、限らない失望感と無力感を味わうこともあります。それはそれで面白くもあります。
何が届かないか？もう、これ以上言うのも、笑い飛ばして、やめましょう。

それはともかく、今まで 20 年間、エドワード親書などに書きとめてきたことを近々、一度まとめて出版することになりそうです。世の中、いろいろな本や音楽や美術作品が溢れていますが、本当に必要なものは何でしょう？あるとしたら、いろいろな人々を愛せるようになるものではないでしょうか。そんなものあるものか、と思いますか？
誰かさんが雲にいつ戻ってもいいように、無駄かもしれませんが遺しておきます。
どうしても読みたい暇人だけ御笑読ください。

また誰がこんな大変な（楽しい）オペラ活動を引き継いでくれるのか、誰も引き継がないのか、私もわかりませんし、分からなくてもいいのでしょうか、あなたはどう思いますか？

それより何より、周りの皆さんが素敵でいてくださり、誰にも秘められた純粋な愛が純粋に表現され、それを喜び素直に受け入れられる心を互いに持ち続けたいです。
愛はどこまでも寛容で、妬まず、おごらず、と聖書にもありましたね。
本当の愛は、愛する何かを、愛する誰かを大切にしたい、それだけですから。
大自然が無条件に好きです。大自然をこんなに愛しています。
そして、もし出来たらすべての人々を愛し続けたい、これが最後の願いです。

残りのお釣りの人生、神である大自然の心に叶うことをさせて頂けること、それだけをそっと祈りつつ。



2014 年 8 月 22 日
石多エドワード



